

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2298400017		
法人名	(株) オハナ		
事業所名	日ノ岡グループホーム		
所在地	静岡県湖西市岡崎2254-2		
自己評価作成日	平成27年10月3日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 x.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=229

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 しずおか創造ネット		
所在地	静岡県静岡市葵区千代田三丁目11番43-6号		
訪問調査日	平成27年10月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・月1度の認知症カフェ ・外出支援 ・施設のない施設

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>通所介護を併設し、保有する送迎車を使い積極的に外出をされています。施設には法人が経営する数力所の施設入居者が集まる運動会を開催できるほどの広い中庭があり、入居者の散歩の場となっています。地域の憩いの場として毎月第4日曜日に認知症カフェ(オハナカフェ)を開催し、菓子職人の経験がある職員がおやつ作りを行ったり、サンマ焼き、介護予防体操などを提供され、地域交流を推進されています。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をしっかりかかげ、それに向け取り組もうと努めている。	「心に寄り添う介護」を法人理念として、職員会議や研修を通じて職員に周知されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物、夏祭り、地域防災、認知症カフェ、いきいきサロンに参加し交流を深めている。	月に1回施設で開催する認知症カフェ、夏祭りなどを通じ、地域の方が施設を訪れる機会を作り、さらに地域で行う集まりや清掃活動、防災訓練に参加し地域交流を図る工夫をされています。ご利用者からは、また参加したいとの要望が寄せられています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議、認知症カフェの利用により地域の方への理解を深めようと努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告を行い、地域の方からの意見、質問がでるので参考にさせていただいています。	会議にて誤薬や避難に対する対応など様々な意見が寄せられていることが確認できました。災害時の避難については、迅速に行うために車での移動が提案され、実際の訓練でも良好な結果が得られるなど、実情に即した提案がなされています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	頻繁には連絡はとれていないが、難しいケースなどは市の方と連携して解決に結ぶことができた。	運営推進会議では決まった担当者の参加があります。また、介護認定申請等のタイミングで積極的に訪問するなど、連携を行う機会を積極的に作られています。これにより困難ケースの対応について相談を行い、助言を得たことがあります。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に施錠はしない施設としているが、利用者様のエスケープにより怪我があったため、職員の手薄の時間帯(利用者様が不穏なときに限り)施錠処置をとっている。	身体拘束ゼロ宣言をされ、基本的に身体拘束を行わない方針をとられ、徘徊のあるご利用者にはその理由を考え介護での対応を行う工夫をされています。ただし安全のため、職員の手薄な朝夕の1時間については玄関の施錠がされています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会はおこなわれていないが、虐待はもちろん危険行為に細心の注意を払い行動している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会はおこなわれておらず、権利擁護についてもほとんどの職員が把握できていないと思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約、解約にいたってトラブルが今のところないため十分な説明ができていると思う。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時、面会時に話をすること、変化がみられたら、電話にて報告、年2回の家族会により家族同士でのコミュニケーションの場をもうけている	ご家族とコミュニケーションをとる機会を多く作ることで、意見を言いやすい環境作りをされています。運営に関する意見はみられませんが 退去の際の不安などの解消につながっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営とまではいかないが、業務内容についての意見は極力きくようにし、できることは実施している。	職員会議や個別面談を通じて職員の意見を聞く機会を作られています。これにより夜勤体制の見直されるなど職場環境の整備に生かされています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課シートの実施面談を含め、評価させていただいている、日ごろコミュニケーションを心がけ普段の様子をみさせていただいている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	行けそうな研修は職員の技量に応じっていただいている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者のみグループホーム会議に参加し、他事業所のグループホーム管理者と交流している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当初は不安も多いため、できるだけ寄り添い傾聴し、安心して生活していただける関係作りを心がけている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	明快時には必ず最近の様子を報告、よりよい関係作りができるよう心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	新たなサービスを導入するときにはご家族やユニットメンバーの理解、協力が得られ差別的な支援ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	役割をもっていただいたり、一緒に何かをすることで、生きがいを感じたり楽しく過ごしていただけるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	明快時には話を聞いたり、ご本人の近況報告をするようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一部の利用者はできているが、皆がそういうわけではない。	ご希望により定期的にお墓参りやご自宅を訪れることや入居前に通っていた美容院へ継続して通う活動の支援を一部のご利用者に提供され、いずれも職員が対応されています。今後はご利用者の馴染みの場所を把握し、より多くの方への対応を広げたいと考えられています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握し、支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	場合により、その後の様子を伺ったり、他界されたときはご家族から連絡があり葬儀に参列させていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の状態に合わせ、支援するよう心がけている。	ご自分から意思表示される方が少ないため、ご利用者やご家族の希望を個々の職員が聞き取りを行い、その情報を介護記録に記入し、さらに職員同士のコミュニケーションの中で情報の共有をされています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	なじみの暮らし方としては、個人の私物を極力もちこんでいただき家での空間と変わらないような空間作りに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の体力、生活ペースを把握し、休息の時間をもうけ、無理のないよう生活していただいている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	変化していく状況に対応できるよう、ユニット、全職員間での会議をもうけ、話し合いの場としている。	職員会議とユニット会議を各月1回開催し参加した職員によりご利用者のモニタリングや情報の集約し、また作成されたケアプランの検討を行います。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノート、ユニット会議を通じ情報共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	26と同じ		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	わかりません。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に説明させていただいている、不満があるのであれば入居前のかかりつけ医にかかるよう説明している。	施設のかかりつけ医が訪問診療を行い健康管理を行います。またかかりつけ医以外の主治医を希望される場合は、施設職員が付添いを行いご家族へ報告をされています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	夜間の急変時に指示をあおってもらったり、変化に応じて相談し指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会時にNSとの話、相談員と話をすることにより、できていると思う。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明させていただいている。該当しそうな入居者様には面会時に話をしよう心がけている。	経口で食事をとることが出来なくなった場合施設としての対応は困難となります。常時の医療が必要となった場合はその都度主治医とご家族と話し合いを行いながら対応を検討されています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの活用、NSIによる勉強会の定期的ひらいている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の最低限の避難訓練の実施。	防災訓練は年2回の施設で行うものと地域で開催される防災訓練に参加されています。また倉庫に1週間分の水やガスコンロ、防寒具などが備蓄をされています。	迅速な避難には限られた職員以外に地域の方の協力が不可欠です。防災訓練の際、地域の方に見学や参加を頂くなど、連携が得られやすい環境の整備が進むことを期待致します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	できている場面と、利用者様をおとうさん、おかあさん。○○ちゃんと呼んでいる場面がある。	ご本人へ馴れ馴れしい言葉遣いがあるため、施設長が職員会議や個別的に該当する職員に注意を行うなど改善に向けての活動が続けられています。またご本人の排泄状況を他のご利用者の前で話をしないなどの工夫が確認できました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択したり、希望を表す場は少なく感じられる。我慢したり遠慮されている方が多いのではないかと感じる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	補水、体操、食事以外の時間は一人ひとりの時間作りを尊重できていると思う		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節感にあった服装選び、整容も毎朝心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	準備片付けに参加されている方は、一部である。	3割程度のご利用者が食事の準備や片付けに参加されています。食形態はご利用者の状況に合わせてキザミ食、ペースト食やミキサー食の提供が可能です。ご利用者と職員が同じ食事をとることで同じ時間を共有されています。また、提供時期は限られますが多くの時で毎週刺身などの生ものの提供を行っておりご利用者から喜ばれています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に応じた、食事形態で提供。必要に応じて水分量を測っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア実施。必要に応じて舌下ブラシ、口腔ウェットティッシュの活用をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁のあるかたでもすぐにオムツにはせず、排泄パターンを把握しトイレ誘導できるよう努めている。	トイレは各ユニットで3か所用意され、うち2つが車いす用です。チェック表を使用し排泄パターンを把握することで失禁する前にトイレ誘導が出来るよう工夫をされています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	気持ちよく排泄できるよう、食、飲料の工夫を施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は2日に1回のため決まっているが、順番、時間帯の考慮は極力できていると思う	毎日入浴を実施することから、体調不良や入浴を拒否される方に対して柔軟に入浴日を変更することができ週3回の実施が可能となっています。寝たきりの方には職員二人体制で実施しています。入浴はご利用者と職員が1対1で接する良い機会となり、コミュニケーションがとれる時間となっているようです。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体力、意見を尊重し時間を設けている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全員が把握できていないとおもう、誤薬のないよう確認作業を忘れず行う		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	囲碁、将棋などうてる職員が行ったりしているが頻繁にはできていない。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物以外にも、地域交流をおこなっている	ご利用者と共に出掛ける買い物は、ご利用者にとって古くからの知人に会う機会となっているようです。またご利用者の散歩は開設当時から飼っている犬の散歩をしながら行います。ご利用者に希望を聞き取りながら外食外出を毎月行い、さらに日帰りの小旅行を年に2回行い、ご家族の参加もあります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数名個々でお金管理をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	数名が電話、手紙などのやりとりをしている、それ以外は面会時に話をしたりしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアに写真の掲載、季節に合わせた掲示物を作成している。	建物は平屋で外の光が取り入れられ明るく広々としたホールになっています。各ユニットに畑が用意され、野菜などをご利用者と共に作り、収穫されたものは食事の際に提供されます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席の配置を考慮したり、ソファを活用している、ユニット間の行き来も自由に行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前使っていた私物の持込を積極的に声かけしている。	タンスなど入居前に利用していた使い慣れた物を落ち込まれるご利用者は6割を超えています。居室は6.5畳ほどの広さがあり、ウォークインクローゼット、介護用ベッドなどが用意されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの配置は少ないが、個々に応じベッドの高さを調整している。		